

オープンクラス競技規定

目次

一般	2
<概要>	2
<参加資格>	2
<運用限界>	2
<保護具の使用>	2
<使用機材>	2
<健康管理>	3
<通信機器>	3
<GPS 測位機並びに軌道生成機>	3
<航空法>	3
<雲中飛行>	3
<衝突回避>	3
<テイクオフ、ランディングの使用について>	3
<ペナルティー及び失格>	4
<タスクキャンセルとタスクストップ>	4
<その他（選手の心得、禁止事項など）>	4
年間ポイント	4
1. 受付	5
2. タスクコミッティー、セーフティコミッティー	5
3. タスク	5
4. クロスカントリー	5
4-1. スタート方法	5
4-2. ターンポイント、シリンダー	6
4-3. リスタート	6
4-4. リフライト	6
4-5. スタートゲート	6
4-6. ゴールの方法	7
4-7. タスクの成立、大会の成立	7
4-8. ペナルティー	7
4-9. 競技の中止	7
4-10. 競技時間	7
4-11. テイクオフ	8
4-12. タスクボードへの記載事項	8
4-13. ランディング	8

4-14. タスクフィニッシュ.....	8
4-15. 競技終了報告（帰着申告）.....	8
4-16. 距離の測定.....	8
4-17. 時間の測定.....	8
4-18. タスクの照明.....	9
4-19. GPS 関連機器の操作方法の習得義務.....	9
4-20. 不正確な GPS トラックログへの対応.....	9
4-21. 得点計算.....	9
5. グランドハンドリング.....	10
5-1. 競技説明.....	10
5-2. ラウンドの成立、タスクの成立、大会の成立.....	10
5-3. 競技順.....	10
5-4. 競技方法.....	10
5-5. 得点計算.....	11

一般

<概要>

パラグライディング学生選手権の競技規定は、パラグライディングジャパンリーグを前提として設定されている。参加選手はその双方を良く理解した上で大会に参加すること。パラグライディング学生選手権のルールとパラグライディングジャパンリーグの間で疑義が生じた場合はパラグライディング学生選手権のルールを優先する。

<参加資格>

- ▶ 参加者は有効なフライヤー会員登録をしていること。
- ▶ 日本学生フライヤー連盟に加盟していること。
- ▶ その他参加資格の詳細は、大会毎に定めるため開催要項に記載。

<運用限界>

- ▶ 選手は自分の使用する機材の特性を十分理解し、なおかつその運用限界内で使用しなければならない。

<保護具の使用>

- ▶ 参加選手は、(Ⅰ)適切な防護ヘルメット、(Ⅱ)大会最終日より遡って 180 日以内にリパックされたレスキューパラシュート、それら 2 点が装備されていなければフライトをしてはならない。リパックされた日付はリパックタグにより確認する。
- ▶ 大会の最初のフライトの際選手はテイクオフスタッフにレスキューパラシュートの確認を受けなければならない。確認を受けた際、レスキューパラシュートのリパック期限が切れている、または大会期間中にリパックの有効期限が切れる場合はその選手の大会参加を認めない。

<使用機材>

- ▶ 使用する機材の安全性・耐空性は選手自身により管理され、確保されていなければならない。少しでもそれらに問題がある場合はフライトしてはならない。

- ▶ 使用機体は、シリアル機のみとする。シリアル機とは、EN 基準あるいは LTF (DHV) 基準に適合していると、CIVL あるいは JHF の認めた認証機関が認定証を発行したものおよび認定証を発行された機体と同型機で、改造されていないものを言う。
- ▶ 大会主催者は、大会期間中いつでも、選手に対して機体の整備状況や安全性について報告を求め、また機体を検査することができる。安全性に問題があると判断された場合は、その問題が解消されるまでその機体の使用を制限することが出来る。
- ▶ 使用機体は、原則として大会期間中変更できない。ただし、破損した場合は適切な処理(パーツ交換・修理)を施した上で破損する以前と同等の耐空性能を得て使用し続けるか機体の変更を申し出ることが出来る。

<健康管理>

- ▶ 選手は心身ともに競技できる健全な状態でなければ競技してはならない。
- ▶ フライトに支障をきたす薬剤や、眠気を催す医療品、アルコールを摂取してのフライトをしてはならない。

<通信機器>

- ▶ 飛行中は電波法で認められた大会公式周波数で送受信できる無線機を使用すること。

<GPS 測位機並びに軌道生成機>

- ▶ GPS のマップデータは WGS84、位置表示フォーマットは dd° mm' ss.s" (36° 16' 35.4" N, 140° 08' 44.0" E) に設定しておくこと。
 - ▶ 使用する機器は WindowsOS に対応し、かつ USB2.0 での接続に対応していること。(USB3.0 でのみしか接続できない機種は各大会で集計する PC が対応していない可能性があるので注意すること。)
- ※スマートフォン等のアプリを使用しての GPS での測位、並びに記録を認める。(使用できる機種は GpsDump で log が読み取れるものである必要があるため、OS が Windows である PC で接続及び認識が可能であり .igc .kml などの形式でトラックデータファイルをオフラインで生成できることを事前に確認しておくこと。)

<航空法>

- ▶ 航空法を厳守すること。

<雲中飛行>

- ▶ 雲中飛行は禁止とされ、競技役員、他の選手によって監視される。
- ▶ 雲中飛行とは、グライダーの一部又は選手が雲により、第三者からの視界から消えたときのことを言う。
- ▶ 多くの選手が雲中飛行をした場合、競技委員長の判断によって競技が中止される場合がある。

<衝突回避>

- ▶ 旋回方向はエアリアルールに準ずる。エアリアルールは参加選手全員に広報されなければならない。
- ▶ サーマルにはすでに旋回中のフライヤーと同方向に旋回するように入ること。

<テイクオフ、ランディングの使用について>

- ▶ 大会で使用するテイクオフ、ランディングは競技委員長の判断による。

<ペナルティー及び失格>

- ▶ 日本学生フライヤー連盟のハラスメント規定に基づいて、ハラスメント行為が行われたと認められる選手はペナルティーを与えられる。
- ▶ 大会規則に違反した選手あるいは役員の指示に従わない選手は警告を与える。警告を与えられた者は何らかのペナルティーを与えられる。二回警告を受けた選手は大会失格とする。
- ▶ 重大な危険行為をした選手及び不正を働いた選手はその時点で大会失格とする。
- ▶ 他人に迷惑をかける行為を行った選手は、大会失格とする場合がある。
- ▶ 大会失格となった選手のその大会での成績は0点にする。また、大会失格となった時点で、その後の競技への出場は認められない(大会失格となった大会のみ)。

<タスクキャンセルとタスクストップ>

- ▶ 競技開始後に天候が急変した場合に、競技委員長はタスクキャンセルすることが出来る。また競技の途中でタスクをストップすることができる。

<その他(選手の心得、禁止事項など)>

- ▶ 水以外のいかなる物品も投下してはならない。
- ▶ 電線、建造物、人混み等の上空は安全な高度(100m以上を目安とする)を保って飛行すること。
- ▶ 競技委員長に安全なフライトは無理と判断された場合、フライトを制限されることがある。
- ▶ たとえ競技が開始されても、気象条件が自分の能力の限界を超えている、あるいは超えそうだと判断した場合、テイクオフを断念すること。
- ▶ 競技フライト中、たとえ競技が中止されなくても、気象条件が自分の能力の限界をこえている、あるいは超えそうだと判断した場合には速やかに競技を中止し、安全にランディングすること。
- ▶ 決定されたタスクの飛行コースが自分の能力では安全にフライトできないと判断したら、テイクオフを断念すること。
- ▶ 競技フライト中、タスクの飛行コースが自分の能力では安全にフライトできないと判断したら、安全なコースに迂回するか速やかに競技を中止し安全にランディングすること。

年間ポイント

ポイント計算

各大会において順位に応じた大会得点を与える。ここで獲得した各大会の大会得点の総計を年間ポイント(最終成績)とし、年間ポイントで年間ランキングを決定する。ただし、年間ポイントが同点となった場合、それぞれの大会での総合得点の高いものを上位とする。

大会得点を以下のように定める。

参加人数	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位-
4	18	14	10	7	5	4	3	2	1	1	1
5	20	15	11	8	6	4	3	2	2	1	1
6	21	16	12	8	6	4	3	3	2	1	1
7	22	17	12	9	6	4	4	3	2	1	1
8	23	18	13	9	7	5	4	3	2	1	1
9	24	18	14	10	7	5	4	3	2	1	1
10	25	19	14	10	7	5	4	3	2	1	1
11	26	20	14	10	7	5	4	3	2	1	1
12	26	20	15	11	7	5	4	3	2	1	1
13	27	21	15	11	8	5	4	3	2	1	1
14	28	21	15	11	8	6	4	3	2	1	1
15	28	21	16	11	8	6	4	3	2	1	1

大会得点の算出方法は以下の通り

下表のように順位に応じて基準点を定める。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位 -
基準点	25点	19点	14点	10点	7点	5点	4点	3点	2点	1点	1点

また参加人数に応じた人数係数を定める。

$$\text{人数係数} = 0.3 + 0.7 \times \text{LOG}_{10}(\text{参加人数})$$

大会得点は基準点と人数係数を掛け算し小数点第一位を四捨五入した数字とする。

$$\text{大会得点 (小数点第一位を四捨五入)} = \text{基準点} \times \text{人数係数}$$

1. 受付

受付は大会のスケジュールの時間に従って大会本部にて行う。受付時間に遅れたものはその日のフライトは棄権したものとみなす。

選手は大会初日までに GPS にウェイポイントデータをダウンロードする。

2. タスクコミッティー、セーフティコミッティー

各大会では、選手間での自薦または他薦によりタスクコミッティー2名、セーフティコミッティー1名を選出する。この3名と競技委員長が大会ブリーフィング、競技ブリーフィングにおいてその日のタスクについて協議し、最終的に競技委員長がタスクを決定する。

- ・タスクコミッティー：競技委員長のタスクについて意見を述べる。
- ・セーフティコミッティー：そのタスクが安全を考慮され設定されたものか確認する。
- ・大会ブリーフィング：天候等の注意事項を共有する。
- ・競技ブリーフィング：タスクの発表、共有をする。

3. タスク

大会期間中は原則タスクを変更できないが、大会全日を通してフライトが出来なかった場合に限りタスクの変更を認める。

タスクは次のものとする。

- a) クロスカントリー
決められたコースを、最短時間で飛行することを目的とする。
- b) グランドハンドリング
 - ① ディスタンス
スタート地点からグランドハンドリングをどれだけ遠くまで行うことができるかを競う。
 - ② デュレーション
グライダーを頭上に保持していただける時間を競う。時間の測定は競技の開始が宣言され、グライダーが地面から離れてから次に地面につくまでの時間を測定する。

4. クロスカントリー

4-1. スタート方法

スタートは、GPS 上で鉛直方向のシリンダーで作られるラインをクロスすることで確認される。

選手個々に空中からスタートラインをクロスする。

スタートラインの計測は(1)または(2)で行う。

(1) スタートラインはあるターンポイントを中心とする決められた半径のシリンダーで、最初にラインをクロスして入った時点から計測が始まる。(ENTER スタート)

(2) スタートラインはあるターンポイントを中心とする決められた半径のシリンダーで、最初にラインをクロスしてシリンダーから出た時から計測が始まる。(EXIT スタート)

ENTER スタートは次のターンポイントがスタートシリンダーの内側にあるときに適用され、EXIT スタートは次のターンポイントがスタートシリンダーの外側にあるときに適用される。FsComp ではこの定義に従いスタート方法が自動設定される。

4-2. ターンポイント、シリンダー

ターンポイントは、主催者から提供される GPS 座標とする。ウェイポイントデータは大会前にリーグ役員によって各選手に配布される。

(1) ターンポイント

実行委員長がウェイポイントデータを大会期間中に加算あるいは変更する場合は、タスクブリーフィングで告知される。ウェイポイントは基本的には地上にある目標物を目安として決められる。

(2) シリンダー

ターンポイントのシリンダーは、主催者が指定したウェイポイントの GPS 座標を中心としたシリンダーとする。シリンダーはスタートするときにも使用されるが、その時は境界線をスタートラインと見なす。シリンダーの半径は、タスクを決定するとき決められる。

(基本)

- ▶ ターンポイントは半径 400m のシリンダーを推奨する。
- ▶ スタート/ゴールポイントは半径 400m 以上のシリンダーを推奨する。
- ▶ 大きなシリンダーのスタート方法の場合はそのときによってサイズは決められる

4-3. リスタート

リスタートは何度しても良い。この場合指定されたスタートラインを最後にクロスした時間が計測される。

4-4. リフライト

リフライトは状況に応じて認める場合があり、競技開始前に競技委員長によって発表される。

リフライトを行う場合は、必ず機材の準備を終了させ、リフライトの前にテイクオフ役員にリフライトすることを告げる。

リフライトの得点は最終フライトのものとする。

リフライトを行う場合は必ずその前のフライトのトラックログを消さなければいけない。選手は必要に応じてバックアップを取っておくこと。

4-5. スタートゲート

最終のスタートゲート時刻を過ぎてタスクをスタートした選手のスタート時刻はこの最終スタート時刻にスタートしたものとみなす。

4-6. ゴールの方法

ゴールは GPS 上で鉛直方向のシリンダーで作られるラインをクロスすることで確認される。ゴールは、地上での目視物は利用しない。

4-7. タスクの成立、大会の成立

(1) タスクの成立

タスクの成立は、次の 2 項目 (I, II) が共に達成されたときである。

- I. テイクオフウィンドウオープンタイムが (参加人数×60 秒) あること。もしくは参加選手全員がテイクオフすること。
- II. そのタスクに参加の意思表示をした選手の 20%以上がミニマム距離を超えた場合。(タスクの最低距離は 10km とする。距離の計算は FS 上の距離を基準とする。)

(2) 大会の成立

大会の成立条件は、次の 2 項目 (I, II) が共に達成されたときである。

- I. タスクが少なくとも 1 本は成立する。
- II. 出場者数が 4 人以上である。

フライトしなかった選手・失格となった選手は、ともにそのフライトに対し 0 点を与える。病気または事故により辞退あるいは大会失格となった選手は採点対象のグループまたはクラスのメンバーとして扱われない。

4-8. ペナルティー

雲中飛行を行った選手は、そのフライトを無効とする。

帰着申告義務違反は、そのタスク得点を 10%減点する。

旋回方向義務違反は、旋回方向義務違反が確認されるたびその選手のタスク得点の 10%を減点し、旋回方向義務違反が 4 回以上確認された時点でそのフライトを無効にする。

高高度フライトの場合、ランディングのインストラクター(あるいは競技委員長)が危険と判断した場合、誘導される場合がある。誘導された場合、以下のとおりのペナルティーがつく。

誘導を無視した場合、そのフライトは失格とする。

無線トラブルの際はそのフライトを無効とする。

※誘導された際のペナルティー※

度を越した誘導(ファイナルアプローチに入った後での高度調整、フレアのタイミングなど)をされた選手は得点の減点をする。度を越した誘導であるかの判断また、そのように判断した場合の減点率については、ランディングのインストラクター(あるいは競技委員長)により決定される。

4-9. 競技の中止

いったん競技が開始されても気象条件の急変等によりその競技を中止する場合がある。その場合フライト中の選手には公式無線により知らせる。フライト中の選手は速やかに安全にランディングすること。

4-10. 競技時間

選手はテイクオフ・ウィンドウ・オープンタイム内にテイクオフし、定められた時間までに競技終了報告をしなければならない。

4-11. テイクオフ

テイクオフは、フリーテイクオフ制を用いる。テイクオフ・ウィンドウ・オープンタイム内に選手の好きな時間にテイクオフする。ただし、テイクオフディレクターの指示に従わなければならない。

4-12. タスクボードへの記載事項

- a) 一般：日付、大会名
- b) タスク内容：タスクの種類、タスク距離、ミニマム距離、テイクオフ・ウィンドウオープン時刻、テイクオフ・ウィンドウクローズ時刻、スタートゲート時刻、タスクフィニッシュ時刻、帰着申告時刻
- c) 安全に関する情報：帰着申告用電話番号、大会本部の電話番号、指定地域におけるサーマルの旋回方向、フライト禁止エリア

4-13. ランディング

ランディング場は地図に示したエリアをいう。指定のランディング場に着地した場合をインサイドランディング、それ以外をアウトランディングという。アウトランディングした場合はエリアルールに従うこと。アウトランディングは、そのフライトを得点対象外とする。ただし、安全上の理由によりアウトランディングした場合は競技委員長およびセーフティーコミッティーの判断によるものとする。

4-14. タスクフィニッシュ

選手はタスクフィニッシュを過ぎたら速やかに(安全最優先で)ランディングすること。この時間は原則としてタスクが十分にこなせるだけの時間をとって設定すること。タスクフィニッシュ直前になっても飛んでいた場合、タスクフィニッシュ後にランディングしてもよい。この場合、タスクフィニッシュの時刻までの GPS のトラックログにて成績を出す。

4-15. 競技終了報告(帰着申告)

帰着申告は、大会参加の意思を示した選手全員がフライト終了後に本人自ら行わなければならない。帰着申告のない場合、そのタスク得点を 10%減点する。当日受付した選手はフライト、ノーフライトのいかんにかかわらず、大会本部に直接報告しなければならない。やむを得ない場合のみ電話での連絡も認める。無線での連絡も受け付けるが、連絡した場合は必ず大会役員の了解をもらうこと。一方的に連絡して無線を切った場合はその連絡を無効とする。

4-16. 距離の測定

- a) GPS のトラックログを用いた距離測定は、0.1km 単位で切り上げられる。
- b) 距離の測定はベストポジションとする。
- c) 距離の計算は FsComp の距離を基準とする。

4-17. 時間の測定

タイムの測定は GPS の時刻データを使用し秒単位とする。測定は以下の方法から FsComp によって自動的に選択する。

またリスタートは何回してもかまわない。

<スタート時刻>

- a) タスクで設定されたスタートゲート時刻
- b) スタートシリンダーの範囲から離脱した時刻 (EXIT/OUT)
- c) スタートシリンダーの範囲に進入した時刻 (ENTER/IN)

<ゴール時刻>

GPS 上のゴールシリンダーを通過した時刻とする。前後のログの記録から時刻を判定する。

4-18. タスクの照明

飛行の証明は1つの連続したトラックログで判定する。2つ以上のトラックログを繋げて1つとすることはできない。

参加選手は少なくとも1つのGPSを装備すること。

※スマートフォン等のアプリを使用してのGPSでの測位、並びに記録を認める。(使用できる機種はGpsDumpでlogが読み取れるものである必要があるため、OSがWindowsであるPCで接続及び認識が可能であり、.igc .kmlなどの形式でトラックデータファイルをオフラインで生成できることを事前に確認しておくこと。)

原則として、時間はGPS時刻をもとに秒単位で計測する。

外部からGPSにダウンロードしたもの、その他のデータソースはタスク証明のデータソースとしては使用されない。

トラックログは時間のデータが残っている有効なものでなければならない。

連続したトラックログは5秒以下の間隔の連続したものが望ましい。

4-19. GPS 関連機器の操作方法の習得義務

選手はバックアップ用に複数のGPSやデータロガーを同時に使用しても良い。

選手は前のタスクのデータを成績が確定するまで消去してはならない。

トラックログが取れなかった場合は選手の責任である。

提出したトラックログで正しく判定されなかった場合は、別のトラックログを提出することができる。

選手は使用するGPSやデータロガーを使用したウェイポイントファイルの使用方法並びにタスクの設定、フライトログの生成方法及び生成されたファイルのアドレスを把握してなければならない。

4-20. 不正確なGPSトラックログへの対応

スタートポイントのミスは採点対象外とする。

連続したトラックログが要求されていてトラックログが連続していない場合は採点対象外とする。

ターンポイントのミスはベストポジションを取り、距離得点が与えられる。

ランディング後にGPSのトラックログを記録し続けて移動するなどの行為によりベストポジションの検出が不可能となった場合、ランディング直前のターンポイントまでの距離がフライト距離となる。

4-21. 得点計算

得点の計算式はGAP2016を使用し、スコアリングおよびフライトログの判定はFsCompおよびGpsDumpを使用する。

GAP のパラメーター（ノミナル距離、ノミナル時間、ノミナルゴール、ミニマム距離）は以下の値を推奨する。変更する場合は、競技委員長と相談する。

- a) ノミナル距離 10km
- b) ノミナル時間 0.25 時間
- c) ノミナルゴール 20%
- d) ミニマム距離 3km

5. グランドハンドリング

大会全日を通してクロスカントリーの競技を行えなかった場合、グランドハンドリングでのディスタンスまたはデュレーションを行う。

5-1. 競技説明

- ① ディスタンス
スタート地点からグランドハンドリングをどれだけ遠くまで行うことができるかを競う。
- ② デュレーション
グライダーを頭上に保持していただける時間を競う。

5-2. ラウンドの成立、タスクの成立、大会の成立

- (1) ラウンドの成立
競技に参加をする意思表示をした選手全員が競技を行った場合、そのラウンドは成立するものとする。
- (2) タスクの成立
ラウンド 1 本の成立を持って、タスクの成立とする。
- (3) 大会の成立
大会の成立条件は、次の 2 項目（Ⅰ、Ⅱ）が共に達成されたときである。
 - Ⅰ. タスクが少なくとも 1 本は成立する。
 - Ⅱ. 出場者数が 4 人以上である。

5-3. 競技順

競技を行う順番は、1 ラウンド目はゼッケン順、2 ラウンド目以降は前のラウンドの成績が低い順とする。

5-4. 競技方法

- ① ディスタンス
スタート地点からグランドハンドリングをどれだけ遠くまで行うことができるかを競う。
計測は大会役員が行う。
計測する距離はスタート地点からグライダーが地面についた時点でのスタート地点に近い足のかかとまでの距離とする。
距離の計測はスタート地点からの直線距離で測定し、測定単位は cm とする（cm 未満は切り捨て）。
競技を行う順番は、1 ラウンド目はゼッケン順、2 ラウンド目以降は前のラウンドの成績が低い順とするが、安全が十分に確保できる場所で競技を行う場合選手全員が同時に競技を始めることを認める。

② デュレーション

グライダーを頭上に保持してられる時間を競う。時間の測定は競技の開始が宣言され、グライダーが地面から離れてから次に地面につくまでの時間を測定する。

計測は大会役員が行う。

時間は制限しない。

競技を行う順番は1ラウンド目はゼッケン順、2ラウンド目以降は前のラウンドの成績が低い順とするが、安全が十分に確保できる場所で競技を行う場合選手全員が同時に競技を始めることを認める。

5-5. 得点計算

① ディスタンス

●ラウンド得点

各ラウンド得点の算出方法は、順位による。

1位…55点 2位…40点 3位…30点 4位…25点 5位…20点 6位…15点 7位以下…10点

●タスク得点

ラウンド得点の総計を各選手のタスク得点とする。

5回以上のラウンドが成立した場合、最も悪い得点（1個）は除かれる。

満点が1000点となるようにノーマライズを行う。

タスク得点の計算式は、

$$P = 1000 \times \frac{x}{X_{max}}$$

(P：タスク得点、x：個人の得点、Xmax：タスク内首位の得点)

●総合得点

各個人のタスク得点を累計して総合得点とする。

② デュレーション

●タスク得点

満点が1000点となるようにノーマライズを行う。

2回以上ラウンドが成立した場合、最も成績の良いラウンドの成績のみを得点対象とする。

$$P = 1000 \times \frac{T}{T_{max}}$$

(P：タスク得点、T：個人の滞空時間、Tmax：Expertクラス最長滞空時間)

●総合得点

各個人のタスク得点を累計して総合得点とする。

総合得点が同点であった場合

大会での最終成績で上位3人に同点があった場合、2人あるいは全員がタイブレイクのグランドハンドリング（ディスタンス、デュレーションなど）を行う。ただし、気象条件および時間的制限によりタイブレイクのグランドハンドリングを行うことが出来ない場合は、大会期間中で成立したラウンドのうち無作為に抽出した一つのラウンドを比較して、点数の高い者を上位とする。